

神代心語常磐草
中

リ 5
1582
2





神代正法中巻

○須佐之男命たりなみ所
 故速須佐之男命たりなみ所
 了ますす時なみ所
 草とゆひあつめて著
 神とらふ宿とらひ
 所神とらひ
 被逐
 不借
 甚



△須佐之男命...
 ○やら...
 追...
 追放...
 ○今...
 ○大...
 日...
 神...
 中



幸 苦 降

尸 満 ぎ

又 食 物 大 宣 考 以 賣 神 又

鼻 口 又 屍 腐 味 大 宣 部 以 賣

相 取 出 作 具

進 遠 須 依

之 男 命 立 窺

所 思 進

大 宣

かろく... 登り... 山... 頭...

都 以 賣 神 殺 殺 以 賣 神 殺

物 殺 殺 以 賣 神 殺

つ 乃 目 乃 種 生 二 乃

生 生 生 生 生 生 生 生

豆 陰 生 大

神 命 令 取

生 生 生 生 生 生 生 生

生 生 生 生 生 生 生 生

生 生 生 生 生 生 生 生

○やまこをもちりたり

ぬるやまのよの命いぬまの肥

乃川よれるる多段の地は厚いま

しき此時を川より著源まらご

アふらふもやまのをれ命其

川よみ入をたりとむをりてま

ど乃がりてまららるるたま

を女と二人あやそて童女と中お

すあえくなくるりかまひまらた

ちいれをどとひねらばまら

△八まこと大蛇けり

○肥の川よまの身髪を地ふり座

しき始終ともてあふよ今の子

ふ准して罪ありて他国追う

まを人ふま中へりてりてり

てまゆり山真あふほり後めり

○まら川原の川や圃仁田取枝

田村を登りて三十五里と経て伊勢

のこりて東ふかむ中の中

ふ入るとまら山の山雲と伯耆の

ふまいやく今俗お船通山といふ○足

名推半名推といふ○嬢の足とわい手

を持てまらりてりてりてりてり

○櫛名田比賣といふ○ま女と

湯はる櫛ふりてりてりてりてり

り称加へりてりてりてりてり

田の地名かりてりてりてりてり

吾あ八國の神大の神見神乃子

ア音が名は名推高が名は

名推むすあが名は推高は高と

まらす又いすれはゆ名はな

そと同とまらつどらむあは

より八をとりりりきこくに高志の

八候をる智なと年ごとにあて

ららるるをれああづと時な

らあなたりとまらす其高

いさゆまらと高へたるれ

何

とてりてり大蛇をりてりてり

ふまらまきと半位てりてりてり

あやらりてりてりてりてり

うらりてりてりてりてり

卵をとりてりてりてりてり

あやれあすりてりてりてり

せりてりてりてりてり

のあやりてりてりてり

あやりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

てりてりてりてり

ク 赤 酸醬 如

頭 目もあらはらなりて。第一何り。

八つ尾八つあや。又そのかり。

谷と八尾度 谷

ふ尾やむわりて。腹を見

まは。 悉 常

れらり 白 故

男命その地をぬふ。 先夫 此

女 女 奉

す 恐 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

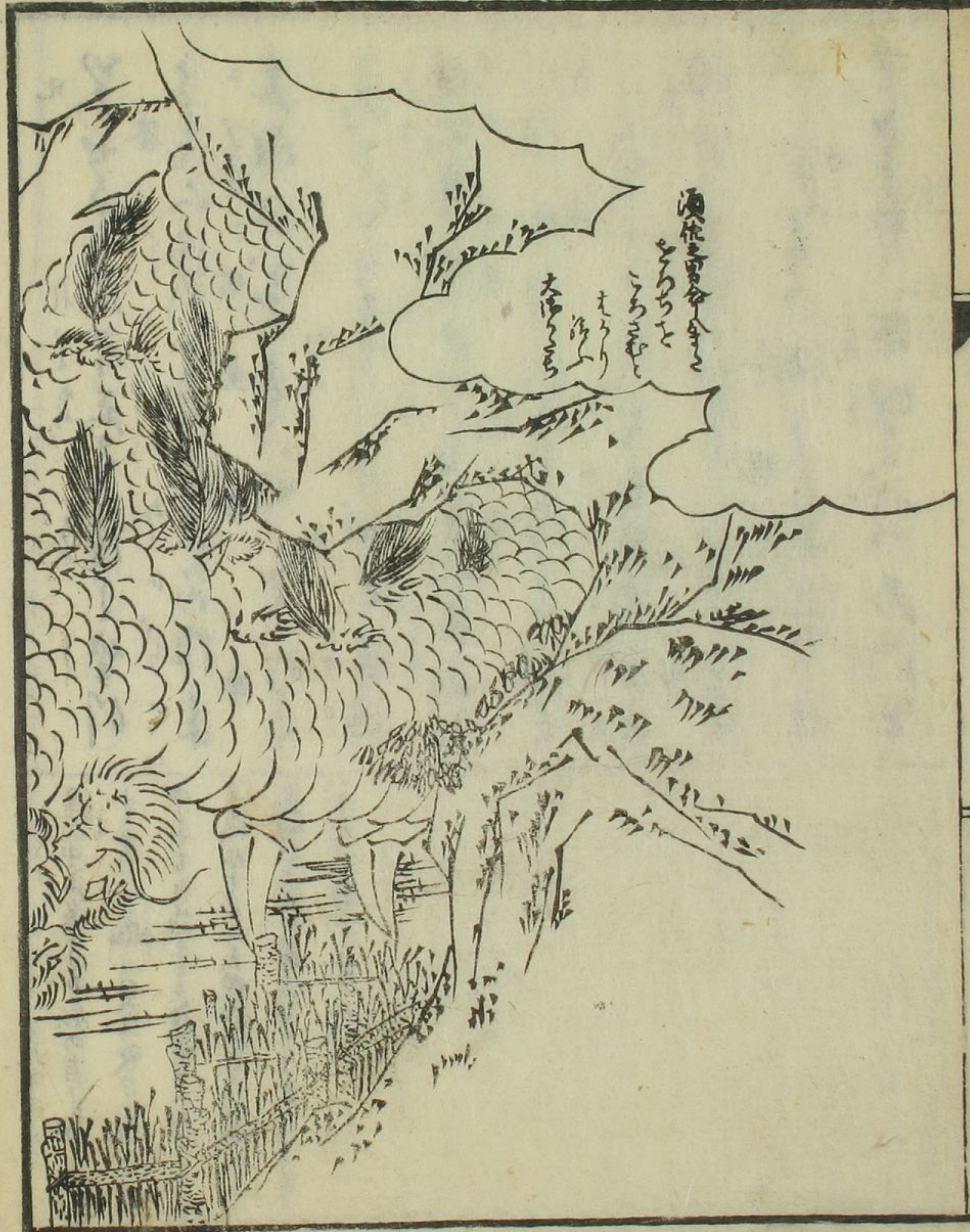
す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃

す 白 吾 わまて 天照大御神乃



中五



酒能事命
まろちと
まろちと
まろちと
まろちと

建速須佐之男命

多紀理毘賣命
又與津島比賣命
胸形之與津宮坐

市寸島比賣命
又狹依毘賣命
胸形之中津宮坐

多岐都比賣命
胸形之邊津宮坐

右之稻倉天衣
右の稲倉天衣

五十猛命
木種
四角犯国

大屋津比賣命
右のり

杵津比賣命
右のり

八島土奴美神
伊母指角比賣

大年神
伊母指角比賣

宇迦之御魂神
右のり

須勢理毘賣命

作
 けり。門ドとみ。八ハつツのノきキをヲゆ
その假殿
 けり。酒サケをヲゆス
槽
 て。ふねフネとふト其ミやヤはハりリ此コノ酒サケをヲ
盛 待
 けり。酒サケをヲゆス
如斯設
 けり。酒サケをヲゆス
大蛇 信 言
 けり。酒サケをヲゆス
無 槽 各 頭
 けり。酒サケをヲゆス
飲 醉 皆 伏 寐
 けり。酒サケをヲゆス

作
 けり。酒サケをヲゆス
佩
 けり。酒サケをヲゆス
斬 散
 けり。酒サケをヲゆス
血 變
 けり。酒サケをヲゆス
斬 怪
 けり。酒サケをヲゆス
鋒 以 刺 割 見
 けり。酒サケをヲゆス
奇
 けり。酒サケをヲゆス
天照 大 海

神（ま）りま（ま）ろ（ま）一（ま）つ（ま）が（ま）孫（ま）の（ま）お（ま）は（ま）此
 草（ま）な（ま）が（ま）れ（ま）た（ま）刀（ま）る（ま）り。

老（ま）丈（ま）い（ま）あ（ま）ら（ま）れ。老（ま）女（ま）け（ま）は（ま）あ（ま）こ

い。童（ま）め（ま）ん（ま）。や（ま）ら（ま）。八（ま）保（ま）遠（ま）

呂（ま）智（ま）い（ま）や（ま）ま（ま）こ（ま）を（ま）あ（ま）ら（ま）ち。

○須賀乃末の辰

故（ま）是（ま）以（ま）（そのま）の（ま）
 かま（ま）こ（ま）と（ま）り（ま）て（ま）其（ま）速（ま）須（ま）賀（ま）之（ま）男（ま）命（ま）。
 官（ま）造（ま）る（ま）べき（ま）と（ま）後（ま）と（ま）お（ま）や（ま）回（ま）り
 求（ま）ま（ま）が（ま）孫（ま）の（ま）お（ま）は（ま）ら（ま）に（ま）須（ま）賀（ま）乃（ま）地（ま）よ（ま）
 り（ま）ま（ま）り（ま）て（ま）の（ま）ま（ま）ら（ま）孫（ま）を（ま）く（ま）一（ま）つ（ま）ま（ま）

△須賀の宮はらら

○此（ま）の（ま）の（ま）今（ま）あ（ま）ら（ま）須（ま）賀（ま）の（ま）
 や（ま）を（ま）造（ま）る（ま）折（ま）は（ま）八（ま）重（ま）垣（ま）の（ま）の（ま）此（ま）は（ま）ら
 ち（ま）八（ま）重（ま）垣（ま）と（ま）お（ま）や（ま）ら（ま）昔（ま）夫（ま）婦（ま）隠（ま）す
 ひ（ま）た（ま）の（ま）ま（ま）は（ま）折（ま）お（ま）雲（ま）八（ま）重（ま）垣（ま）を（ま）仰（ま）ら
 こ（ま）や（ま）ら（ま）ん（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）と（ま）○首（ま）ら
 ○長（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）○八（ま）年（ま）神
 ○は（ま）の（ま）ま（ま）は（ま）造（ま）る（ま）折（ま）は（ま）ら（ま）ん

此（ま）處（ま）に（ま）來（ま）坐（ま）て（ま）ぶ（ま）が（ま）清（ま）く（ま）ら（ま）す（ま）と（ま）

一（ま）つ（ま）ま（ま）ら（ま）孫（ま）ひ（ま）く（ま）と（ま）れ（ま）た（ま）も

ま（ま）は（ま）今（ま）は（ま）須（ま）賀（ま）乃（ま）地（ま）乃（ま）末（ま）乃（ま）神（ま）

初（ま）に（ま）須（ま）賀（ま）乃（ま）末（ま）乃（ま）造（ま）る（ま）と（ま）し（ま）と（ま）

其（ま）地（ま）を（ま）起（ま）す（ま）と（ま）ら（ま）り（ま）ま（ま）ら（ま）

御（ま）哥（ま）作（ま）る（ま）と（ま）ら（ま）り（ま）ま（ま）ら（ま）り（ま）

み（ま）と（ま）ら（ま）り（ま）ま（ま）ら（ま）り（ま）ま（ま）ら（ま）り（ま）

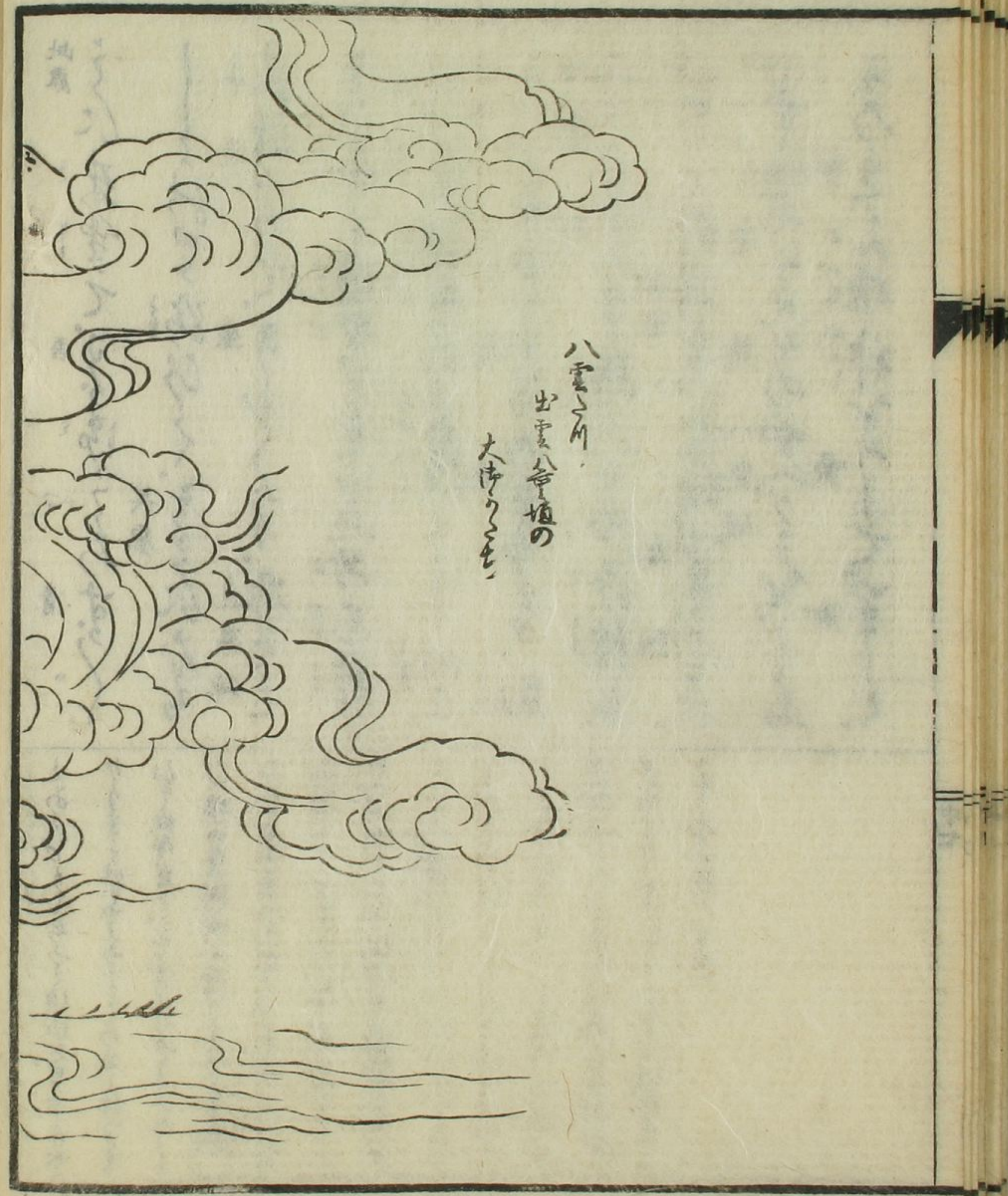
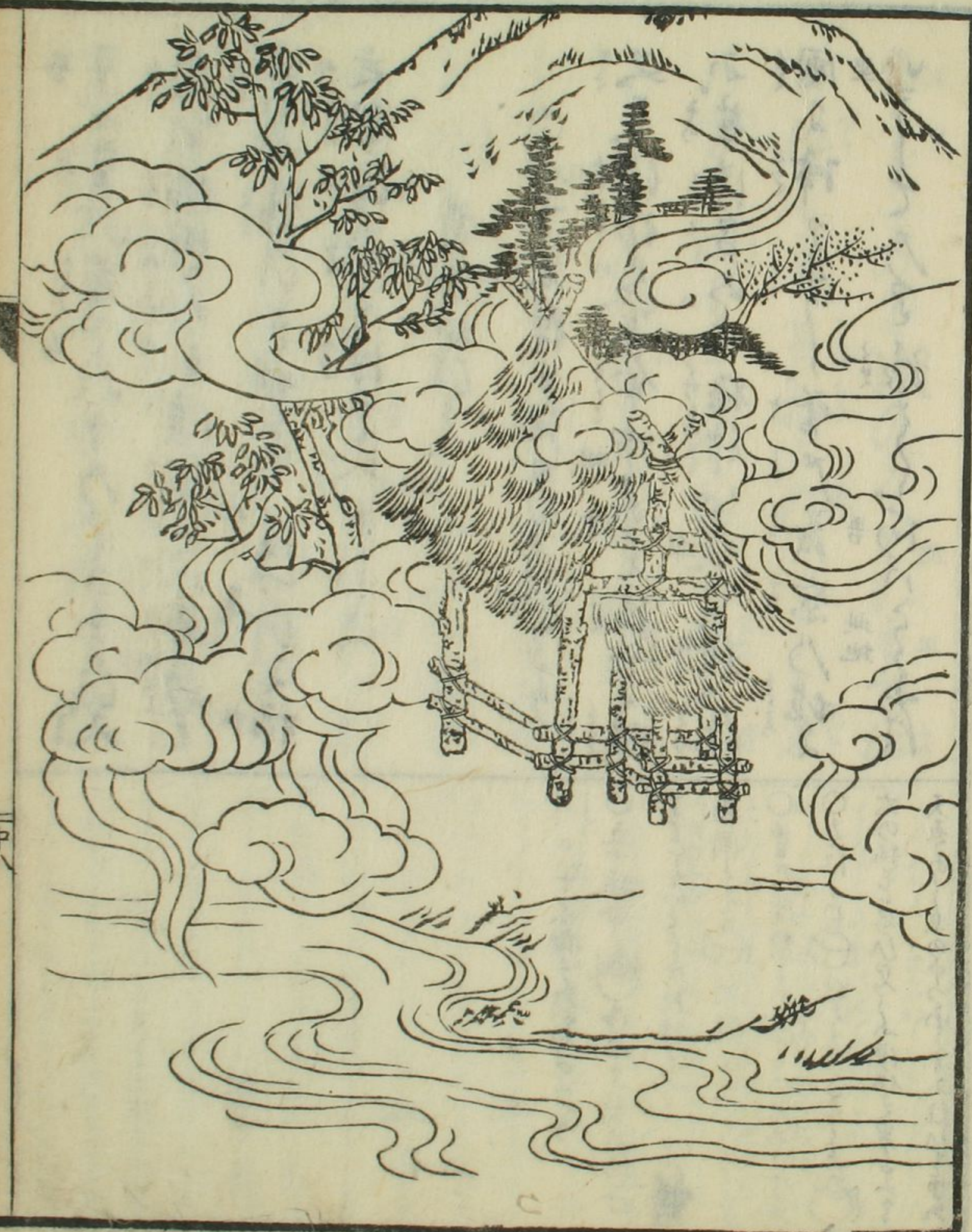
や（ま）を（ま）立（ま）出（ま）雲（ま）や（ま）へ（ま）と（ま）ら（ま）り（ま）

八（ま）重（ま）垣（ま）つ（ま）ま（ま）ら（ま）り（ま）ま（ま）ら（ま）り（ま）

ら（ま）乃（ま）足（ま）名（ま）推（ま）神（ま）を（ま）り（ま）て（ま）お（ま）ま（ま）り（ま）

ら（ま）乃（ま）足（ま）名（ま）推（ま）神（ま）を（ま）り（ま）て（ま）お（ま）ま（ま）り（ま）

とあ（ま）とら（ま）ら（ま）ん（ま）須（ま）賀（ま）之（ま）男（ま）命（ま）の（ま）奴
 かり（ま）ま（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 ひ（ま）て（ま）奴（ま）身（ま）と（ま）と（ま）者（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 ○根（ま）の（ま）堅（ま）洲（ま）お（ま）降（ま）し（ま）入（ま）す（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）
 ち（ま）の（ま）ま（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 む（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 り（ま）つ（ま）お（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 こ（ま）ま（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 ろ（ま）つ（ま）お（ま）父（ま）大（ま）神（ま）よ（ま）む（ま）ひ（ま）て（ま）母（ま）の（ま）お（ま）は（ま）
 ら（ま）ん（ま）の（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 ○根（ま）の（ま）
 堅（ま）洲（ま）お（ま）ら（ま）ん（ま）中（ま）庸（ま）の（ま）後（ま）前（ま）お（ま）月（ま）讀（ま）命（ま）
 の（ま）司（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）は（ま）ら（ま）ん（ま）
 ま（ま）今（ま）月（ま）と（ま）ら（ま）ん（ま）



八雲の
出雲の
大津の

吾が宮は着せれと乃りしきより又
名と梅田高王須加之八拜神と
おかせ給ひきりて後つひに根
之邊海島に降を入まき。

首をあげて

○八十本種まじり此をり
又も酒依之男命やうそを給つ時
お其降子八十種神とめて新降
國に降まきし曾戸辰集乃地
いすて乃り給もく。つひに中

△八十本種まじり此をり
○五十猛命の島名を此の島子
○曾戸茂梨の島名を此の島名とす
○大の島と思ひ又小の島と思ひ
天原の島の中つゝも小住しとす

不坐と乃り給ひく。植以
を此とく其およめく。東
乃方に波まきして此を國とい
りまじり此の幸種神天
降
持
不植
持
乃ゆゑあまの御孫を
つゝこれあまの御孫

朝鮮國の島名を此の島名とす
○かか島の島名を此の島名とす
○かか島の島名を此の島名とす
○かか島の島名を此の島名とす
○かか島の島名を此の島名とす

以^ミ其神^{カミ}を^{カミ}さ^サく^ク功^{イサ}之^ノ神^{カミ}
よれ^{ヨレ}ま^マふ^フは^ハ木^キ園^ヰは^ハ守^テ
大^{オホ}神^{カミ}なり^{ナリ}と^トも^モい^イは^ハす^ス

東^{トウ}の^ノい^イま^マの^ノか^カは^ハる^ル 乃^ノ地^チ

之^ノ神^{カミ}い^イは^ハす^スの^ノり^リ

或^モよ^ヨは^ハ伊^イ名^ナ原^{ハラ}伊^イ左^サ神^{カミ}

その
常^{ナガ}神^{カミ}社^ヤ相^{サウ}神^{カミ}大^{オホ}月^{ツキ}次^ジ

又^{マタ}名^ナ酒^{サケ}師^シ之^ノ身^ミ命^{ノミ}は^ハ乃^ノと^トも^モい^イは^ハす^ス

く^ク神^{カミ}玉^{タマ}乃^ノと^トも^モい^イは^ハす^ス子^コは^ハ銀^{ギン}

何^{ナニ}あ^アま^マは^ハあ^アら^ラ汚^キ子^コは^ハち^チろ^ロと^トも^モい^イは^ハす^ス

ひ^ヒま^マも^モ浮^{ウキ}室^{シツ}な^ナく^クて^テい^イは^ハす^スの^ノり^リ
の^ノと^トも^モい^イは^ハす^スひ^ヒく^クし^シれ^レを^ヲら^ラ汚^キひ^ヒげ^ゲと^ト
ま^マを^ヲて^テち^チろ^ロ汚^キひ^ヒう^ウげ^ゲす^スれ^レ
ま^マつ^ツ樞^{シュ}と^トい^イは^ハす^ス又^{マタ}汚^キひ^ヒは^ハれ^レも^モ
と^トも^モい^イは^ハす^スて^テち^チろ^ロ汚^キひ^ヒを^ヲれ^レは^ハす^ス
汚^キ辱^{ラツ}は^ハれ^レも^モち^チろ^ロ汚^キひ^ヒを^ヲれ^レは^ハす^ス
なり^{ナリ}汚^キ辱^{ラツ}は^ハれ^レも^モち^チろ^ロ汚^キひ^ヒを^ヲれ^レは^ハす^ス
柿^シと^トい^イは^ハす^スき^キか^カつ^ツて^テけ^ケら^ラと^トも^モい^イは^ハす^ス
圓^{マル}ふ^フき^キま^マを^ヲ定^サめ^メて^テ乃^ノと^トも^モい^イは^ハす^ス
ち^チろ^ロ汚^キひ^ヒを^ヲれ^レは^ハす^ス柿^シと^トい^イは^ハす^ス

此^{コノ}神^{カミ}は^ハ禰^ニの^ノ御^ミ船^{フネ}なり^{ナリ}と^トも^モい^イは^ハす^ス○
室^{シツ}は^ハ船^{フネ}の^ノ御^ミ船^{フネ}なり^{ナリ}○
命^{ノミ}は^ハ舟^{フネ}の^ノ御^ミ船^{フネ}なり^{ナリ}○
木^キは^ハ舟^{フネ}の^ノ御^ミ船^{フネ}なり^{ナリ}○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○
○

浮宮より作る一棹ハシハシのりみ宮殿
の造る本ミと一棹ハシハシ頭見
書人ミ並此奥下方持取具
そまハシと一棹ハシハシ生
又ハシハシと一棹ハシハシ生
おこハシハシハシハシハシ
十種命ハシ次ハシ大ハシ津ハシ命ハシ
次ハシ津ハシ命ハシ三ハシ津ハシ命ハシ
とらハシと一棹ハシハシハシ
終ハシハシハシハシハシ奉

終ハシハシハシハシハシ
と一棹ハシハシハシハシハシ
と一棹ハシハシハシハシハシ

終ハシハシハシハシハシ

終ハシハシハシハシハシ

終ハシハシハシハシハシ

終ハシハシハシハシハシ

終ハシハシハシハシハシ

終ハシハシハシハシハシ

終ハシハシハシハシハシ

郡麻郡比賣神社次新紫

八島士奴美神

布波能遲之奴須能神

神母八島川の神の神母

深淵之水夜礼花神

神母深淵之水夜礼花神

深美豆奴神

神母深美豆奴神

天之冬衣神

神母天之冬衣神

大國主神

又大穴牟遲神

又葦原色許男神

又八十子神

神母八島川

神母八十子

△大國主神の御祖は...

○八島士奴美神は...

○神大市實神は...

○大穴牟遲神は...

○天之冬衣神は...

○深美豆奴神は...

○深淵之水夜礼花神は...

○布波能遲之奴須能神は...

○布原色許男神は...

○八十子神は...

○大國主神は...

○又大穴牟遲神は...

○又葦原色許男神は...

○又八十子神は...

○神母八島川は...

○神母八十子は...

○神母深淵之水夜礼花神は...

○神母深美豆奴神は...

○神母天之冬衣神は...

○神母布波能遲之奴須能神は...

○神母布原色許男神は...

比賣に涉あひく生坐る涉子大
玉神又乃涉名ハ大宮年産
神又乃此名ハ千矛神又の此名
を字考志玉神とまます申并
けきて涉名又つある。

清魂とそま。大宮年産ハ。
おやしむらぢ濁。葦原
も許男ハありしとこと。

○いまだれ志る免乃ぐり

故此大國主神の涉名ハ十神ま
しき物まとも皆ハ大國主神ハ
避奉。避奉。奉。
さりまつる。さりまつる。ゆえハ。
其ハ十神おもしろ。輪羽乃ハ比賣
婚。
とよぶむ乃ハありて。おふりまび
ゆえくろのり。大宮年産神ハ
負。従。人。率。往。
とゆかせとも人としてわてゆえ。
うれ。あま此侍よりうりうり
おあらはせり。免をりハ十神
そ。免よりうり。女をむハけ

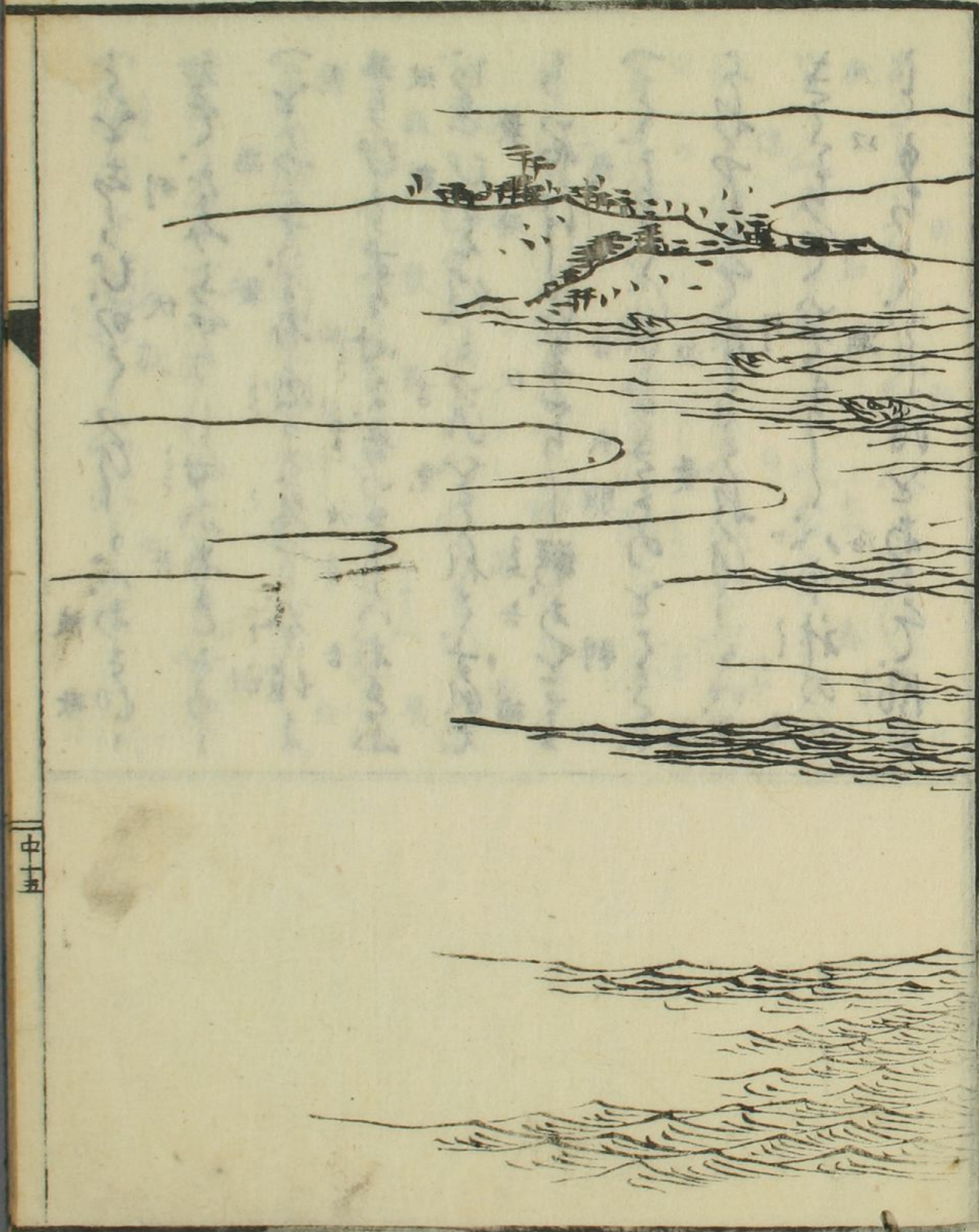
切神ハ。○判国者皇命。○
左志國ハ父の次名も母ハお討つこと。○
大國主神。○此名と須佐之男名より大國主神
とカレ仰せし。○此大國の主と云ふは。○又大
○又八矛神。○此名と武威の字とまの
子とせし。○此名と武威の字とまの
牟婁命。○此名と武威の字とまの
大野中。○此名と武威の字とまの
内。○此名と武威の字とまの
大穴と命と保つ。○此名と武威の字とまの
か。○葦原色許男神。○此名と武威の字とまの
今。○此名と武威の字とまの
高天の男神。○此名と武威の字とまの
玉林。○此名と武威の字とまの
やま。○此名と武威の字とまの

△白兔の白兔の

○白兔。○此名と武威の字とまの
しき。○此名と武威の字とまの
皮と。○此名と武威の字とまの
の海内。○此名と武威の字とまの
小並。○此名と武威の字とまの
花ハ。○此名と武威の字とまの
○八十神。○此神等の名とまの
此免と怒と報ハ大國主神のまの
身の。○此名と武威の字とまの
の行ハ。○此名と武威の字とまの
上比賣ハ衣川長秋洗今ハ因幡國ハ上郡
也ハ田村ハ比賣神社あり

潮 浴を 河を あ 風 の 吹 は あり く
な や ま と の 目 高 の 尾 に あり く よ と の あ れ 其
免 バ 十 神 の あ る ま に 一
目 て あ り き こ の あ の あ り ま
あ り き の 皮 を あ り ま の あ り ま
被 裂 き こ の あ り ま の あ り ま
最 後 あ り ま の あ り ま の あ り ま
泣 の 神 其 免 と あ り ま の あ り ま
白 あ り ま の あ り ま の あ り ま
ぎ ま の あ り ま の あ り ま の あ り ま

此 の あ り ま の あ り ま の あ り ま
由 あ り ま の あ り ま の あ り ま
欺 あ り ま の あ り ま の あ り ま
族 類 あ り ま の あ り ま の あ り ま
欲 計 あ り ま の あ り ま の あ り ま
有 悉 あ り ま の あ り ま の あ り ま
の あ り ま の あ り ま の あ り ま
け あ り ま の あ り ま の あ り ま
豆 吾 あ り ま の あ り ま の あ り ま
作 敷 あ り ま の あ り ま の あ り ま
執 あ り ま の あ り ま の あ り ま



いそぐはまの鬼の神
重くはまのあまのり
て海の神もとあま
ひきけふうら

とをあらむびかくり^{被欺}うべあむむ
 えそ^{列伏}なみふやうし^吾あむそ
 下^{踏敷}とふてふ^数後^{言竟}す^吾て^吾今^吾坊^吾
 下^{被欺}ありむ^{言竟}す^{言竟}時^吾ふ^吾吾^吾の^吾ま^吾い^吾あ^吾ま^吾ふ
 被^最欺^端ひ^伏え^伏け^伏と^伏ひ^伏を^伏れ^伏を^伏す^伏れ^伏を^伏
 ち^悉わ^悉け^悉に^悉あ^悉せ^悉り^悉鮮^吾あ^吾と^吾そ^吾
 つ^泣こ^泣ら^泣に^泣に^泣が^泣き^泣ま^泣の^泣と^泣と^泣と^泣
 う^先あ^先ら^先う^先そ^先な^先ら^先う^先ら^先ひ^先ら^先う^先べ^先さ^先
 き^以ら^以て^以い^以て^以ま^以し^以十^命神^命の^命み^命
 一^以ち^以ら^以く^以は^以と^以あ^以そ^以て^以風^以よ^以

あり^目あ^目れ^目と^目や^目ら^目う^目ま^目い^目き^目故^目
 教^如を^如う^如の^如ど^如と^如ら^如う^如の^如吾^如身^如と^如く^如
 に^傷そ^傷れ^傷を^傷ら^傷う^傷ま^傷を^傷ら^傷ら^傷う^傷ら^傷う^傷ら^傷う^傷
 年^急を^急神^急を^急鬼^急あ^急ま^急ら^急う^急今^急と^急
 く^洗け^洗水^洗門^洗は^洗ゆ^洗よ^洗て^洗水^洗を^洗て^洗あ^洗が^洗身^洗
 と^取あ^取ら^取ひ^取て^取そ^取の^取あ^取ら^取れ^取ら^取ま^取の^取あ^取ら^取れ^取
 を^轉と^轉り^轉て^轉あ^轉ま^轉ら^轉う^轉ら^轉う^轉ら^轉う^轉ら^轉う^轉ら^轉う^轉
 ま^命ら^命び^命て^命だ^命な^命う^命三^命か^命れ^命ら^命う^命ら^命う^命
 の^教あ^教ら^教う^教す^教い^教え^教な^教む^教もの^教ぞ^教と^教
 一^如は^如ら^如う^如あ^如ら^如う^如ら^如う^如ら^如う^如ら^如う^如ら^如う^如

仰者のみも同くして
大國を其神々神々
あまひつりて其を
よき事と大いに



参来 白 蛇ひき故その
まわらうとまきし 此 弟系を許男
ち神ぞ見くこは 即
とつ神ぞくのやと 蛇ひそやうそ
喚入 蛇乃室に神め
よびつきて 蛇乃室に神め
蛇ひよあふそ 夫 授
命蛇乃ひまをそひとぢふら
くその中 蛇とく 其蛇くまひと
せだけ比礼とこびゆりてうち
拂ひ 蛇とくのまたまふ 教
へ乃とく 蛇ひくバ蛇おのづこ

も奉りうふくうふふふふて比賣の
命と儲せよ契とふくうと大國ま
いとどおひさうとまふふふふ
もて只ふふふれいふふと今も天の
二人とふう和むむかふいふふきえ
んていふて味いふふてふふふ
いふふふかまき状ふふふふふい見
神のさひ井林大宮のまふふふふ
終ふふふふ善きふふふふふふ
といふ候のふふふふふふふ○八上
はまふふ 因幡國のふふふふふふ
かふふと須理理毘賣命ふふふてふ
木の俣ふふふふ本國へふふふてふ
ふ○井の神とふふ 所ふ井とあり
民のふふふふふふふふふふふふ
○はまふふふ井とふふふ人御まふ
を

静 ちづまりー 加まやとくぬて出 蛇ひ
き又らるぬれ 蛇ひ 号とと 蜂や乃
室 びる屋よれ 蛇ひと又号と蜂
乃ひまをさづらて 先 乃とと 友
一 蛇ひゆまふやとくておま
いさ

蛇まへこ 室いむらや

号とと 蛇ひ
又鳴瀧と大蛇乃中ふとわく
甚矣ととと 蛇ひ 其聖

お入ますとさふだもて其野と焼
ゆづ〜つあにむむと海と志
らざる間も氣あくるみくらは内
まほしく外はまぶくがくふ
中其處踏落
あふそとをさうははちり
隠
わく〜わひひさふ大もやあふ
うふそ氣うらなりわくとさ
持
ゆらああ〜とてまうりさそを
乃羽とむ扇のふとと盛作持
くりき

鳴痛となりうづ外はと
故その沸あすやうびあはさうり
袖と持〜な〜つあ〜其
乃大神とすふみうせあとゆと
してそ即あお〜たすれをら
か乃矢とゆらそしあてまうり時よあ
よあてへ〜八回間の大室および
お〜そ〜頭
ひお故その沸頭と見んま〜多
わらう〜ああむ〜此あゆの

とげふと赤土と其夫のらに三つ換まげをま
 ひきれぬまふの實破を破くひやうり赤土
 と合ふ會ふ合は破さ破お破ひ破は破を破大
 神吳公む公を破と破ひ破や破う破て破つ破を破あ破す
 と破あ破り破て破あ破け破く破あ破り破
 してこなぬきキいいにいそそ大大神神乃
 御御發發ととりりててままむむららややののききりりと
 毎毎結結着着いいわわびびとといいままの
 とといいひひつつととままりりををままの
 とと取取塞塞ののままりりををままの
 戸戸おおりりととままりりををままの
 賣賣ととああひひくくととままりりををままの

生生りり又又そのその天天石石琴琴ををりりももと
 してしてももああおおままりり時時其其天天石石琴琴
 樹樹ととああひひくくととままりりををままの
 少少寝寝ままるる大大神神ををままりりををままの
 縁縁ととああひひくくととままりりををままの
 たりたりととああひひくくととままりりををままの
 ああひひくくととままりりををままの
 又又そそのの大大神神ををままりりををままの
 至至ててととああひひくくととままりりををままの
 宮宮年年違違神神ととああひひくくととままりりををままの

ちくそ^{その}女^持がもつる生^く太^だ刀^ち
 つくや^ヤ以^兄
 生^兄弓^等矢^等とめらして^等ま^等が^等あり
 中^第く^等どもと^等げ^等坂^等乃^等お^等尾^等又^等お^等ひ^等ふ
 世^う乃^ハ漸^セま^追お^接ひ^接を^接し^接ひ^接く^接れ^接
 大^お圃^のを^の神^のと^のれ^の又^のふ^のく^のお^の玉^の
 神^のと^のなり^のて^のそ^のの^の何^のが^のむ^のす^のあ^の須^の勢^の
 理^の路^の賣^のと^の嫡^の妻^のと^のして^の字^の如^のく^の
 山^の乃^のお^のお^のに^の應^のけ^のる^の程^のよ^の宮^の指^の市^の
 と^の志^のる^のも^の天^のあ^のよ^の水^の本^のた^のる^のる^の
 て^のと^のま^のこ^のや^のけ^のよ^のも^の乃^の是^のた^のま^のひ^のお^の

お百川石いいびきと

天沼雲いおれ乃ること

嫡妻をむひえ

故^れ其^の大^の刀^の弓^のと^のめ^のら^のそ^のか^の乃^の八^の十^の神^の
 と^のお^のひ^のさ^のら^の系^の時^のは^の坂^のの^の内^の尾^のと^のは^の
 此^のの^のあ^のせ^の乃^の漸^のま^のお^のひ^のを^の
 ひ^のく^の圃^のつ^のり^のけ^のめ^の跡^のの^のよ^の
 故^の乃^の八^の上^のは^の賣^のを^の先^の乃^のら^のを^の
 其^の八^の上^のは^の賣^のを^の率^の來^のつ^のる^の

きまればりまゝで五手差纏
股長寐者宿
 夢勿戀なごぶいむとあや
 おるいきさうヤチヤバ子神乃
 命いのがりととこならぬも
不逢明ひ御逢
 衣あるさびくろろれおあ
 けのま

○うきゆい乃らざり
 又其神乃嫡后須勢理毘賣
 命いく甚嫉如か
 のお故其法古逆神いびく出ッ

雲より倭國より上坐立
装束してまのりあす時まあと
とてい馬乃鞍掛片うた
いちのあらいにいます
歌いたまりくぬをも乃思身
御衣真具取装奥
みまりまあらふとりよいひ
きけらりひるさらんりこ
此不宜邊浪磯
おゆらそれたらずりれおよみ
脱棄鳩鳥あと
くまらずらよらいひた

○長いのま野羽玉の枕枕
うらひ衣をたらふ足くてね
着ること沖の水まれ狗いれ
あれいまからいまからいまか

十山のけく赤色み條ら
衣をまのまらいまからいまか
く入まひてくまらいまか
の妹といん枕けてらくあらい
后よいまからいまか
の世
人にいまからいまか
あらいまからいまか
まののまらいまからいまか
あらいまからいまか
とらいまからいまか
后を手つく酒つれをおけく
まらいまからいまか
まらいまからいまか

高比賣命
事代主神
鳥鳴海神
建御名方神

命。又此神名をト照比賣命。ト
阿志貴高日子根神。ト今も
大御神ト云々ト神ナリ。

或云大和志貴高日子根神ト云々
河内志貴高日子根神ト云々

大國主神又神屋楯比賣命
みあひく。ト云々ト事代
主神又八色年産神の女。ト
耳神ト云々ト云々ト

○高比賣命
○事代主神
○神屋楯比賣命
○鳥鳴海神
○大國主神
○八色年産神
○耳神

○鳥鳴海神

國忍富神

速彥之多氣佐波
夜遲奴美神

建主日子神

名比理志流美神

神子。多鳴海神。此神。日名照高
國忍富神。伊許知途神。ト云々ト
常那志貴神。又乃名。ト八河
比賣。ト云々ト云々ト
速彥之多氣佐波。夜遲奴美神。
此神。天之魂主神。乃むす。前玉
比賣。ト云々ト云々ト
建主日子神。此神。加美神の
むす。比理志流美神。ト云々ト

名照の。ト云々ト云々ト
河内志貴高日子根神。ト云々ト
住。ト云々ト云々ト
称。ト云々ト云々ト
○國忍富神
○夜遲奴美神
○建主日子神
○加美神
○比理志流美神

美日浪神
所共伝説あり其
花盛る美神曰浪
神のちちを神

布衣富馬鳴海神
所共伝説あり其
花盛る美神曰浪
神のちちを神

天日服天科度美神
所共伝説あり其
花盛る美神曰浪
神のちちを神

遠津岬多良斯神
所共伝説あり其
花盛る美神曰浪
神のちちを神

て。みませる湯子。多比理波志麻呂
美神。比神。比。経本之其花麻呂
美神のむすめ。海島花比賣神
小三あひく。みませる湯子。美日浪
神。比神。敷山之神の女。美日浪
神。比賣。比。三。比。ひ。く。みませる湯子。
布衣富馬鳴海神。比神。美日浪女
神。よ。こ。ひ。く。みませる湯子。天
日服天科度美神。比神。天。物。務
神。乃。女。遠。比。比。根。神。よ。こ。ひ。く。

生ませる湯子。遠は山岬多良斯
神。

鳥鳴海ととりれる。青の

馬沼押をあをぬまぬ。

市忍をぬり。山岬を

あがれ。

右乃らり。八名士奴美神より遠

津山岬神まで。そままりなまよ

乃神とまよぬ。

市乃らり。

里とて海中そ人溺まされゆき

らり。比神の比根がうらみとて

多比理波志麻呂神。美神の公伝る

本神に比根がうらみとて

比神かへると。比。羅。本。之。其。花。麻。呂

美神。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

たいて。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

巨麻郡言活ありとて。布衣富馬鳴海神

即母神沼神あり。美神。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

右の。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

河内。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

書。比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

比。神。比。根。花。比。賣。神。好。こ

○少名毘古那神乃後

故大國主神おろし三輪乃後
坐 ますとれたる波乃後
乃船よりおろし乃後
剥 剥ぐに剥ぐ衣晒して
神あまの其名とすし
答 又波ともの神
延路古ぞうりずち

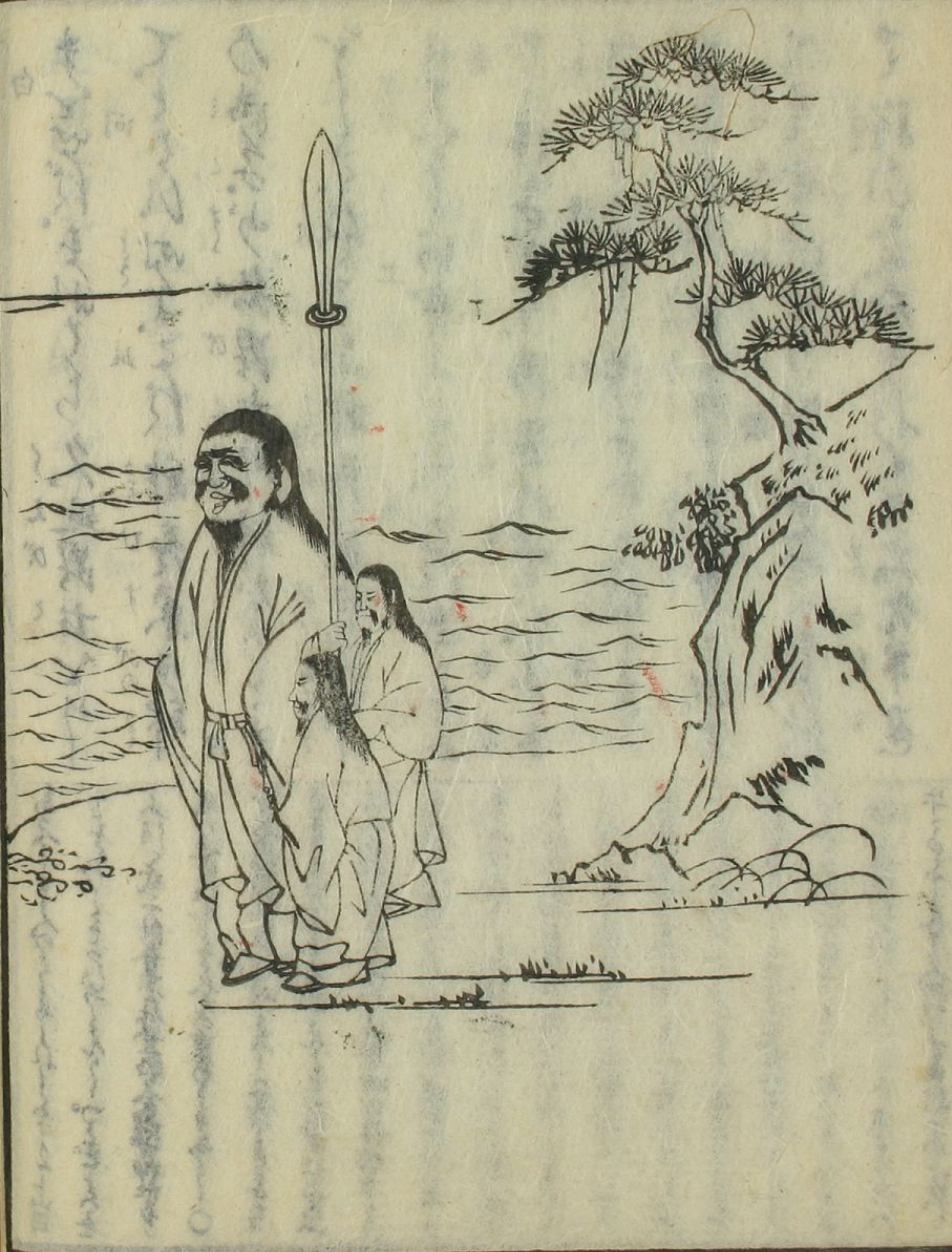
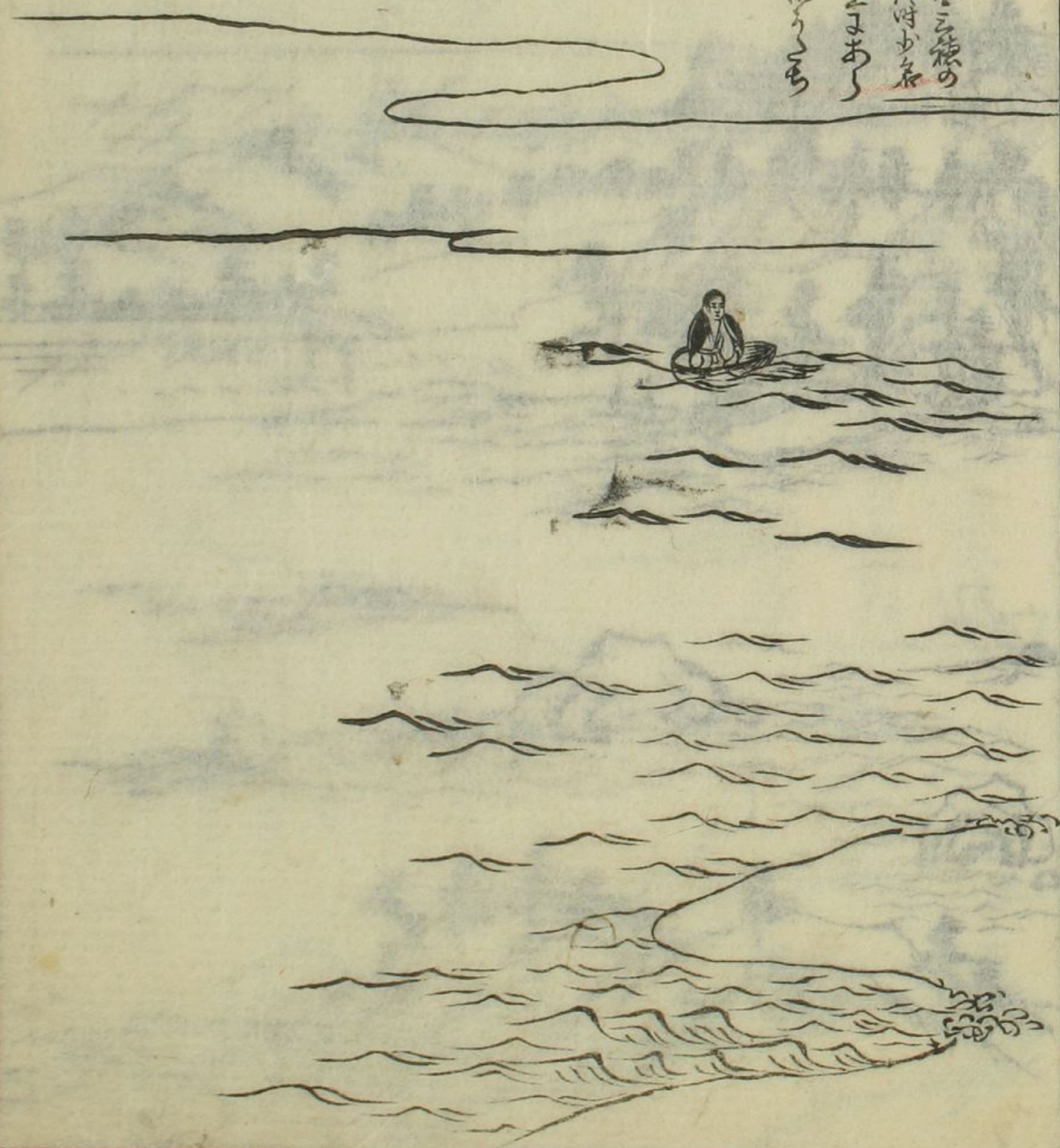
▲少名毘古那神の

○三種の心持
○浪の穂
○天のつれ船
今俗にかりひす
実と割るる形舟
皮とつれ
物
谷蟻
秋の縮実
まき山里
居
天地
収
とる
具古

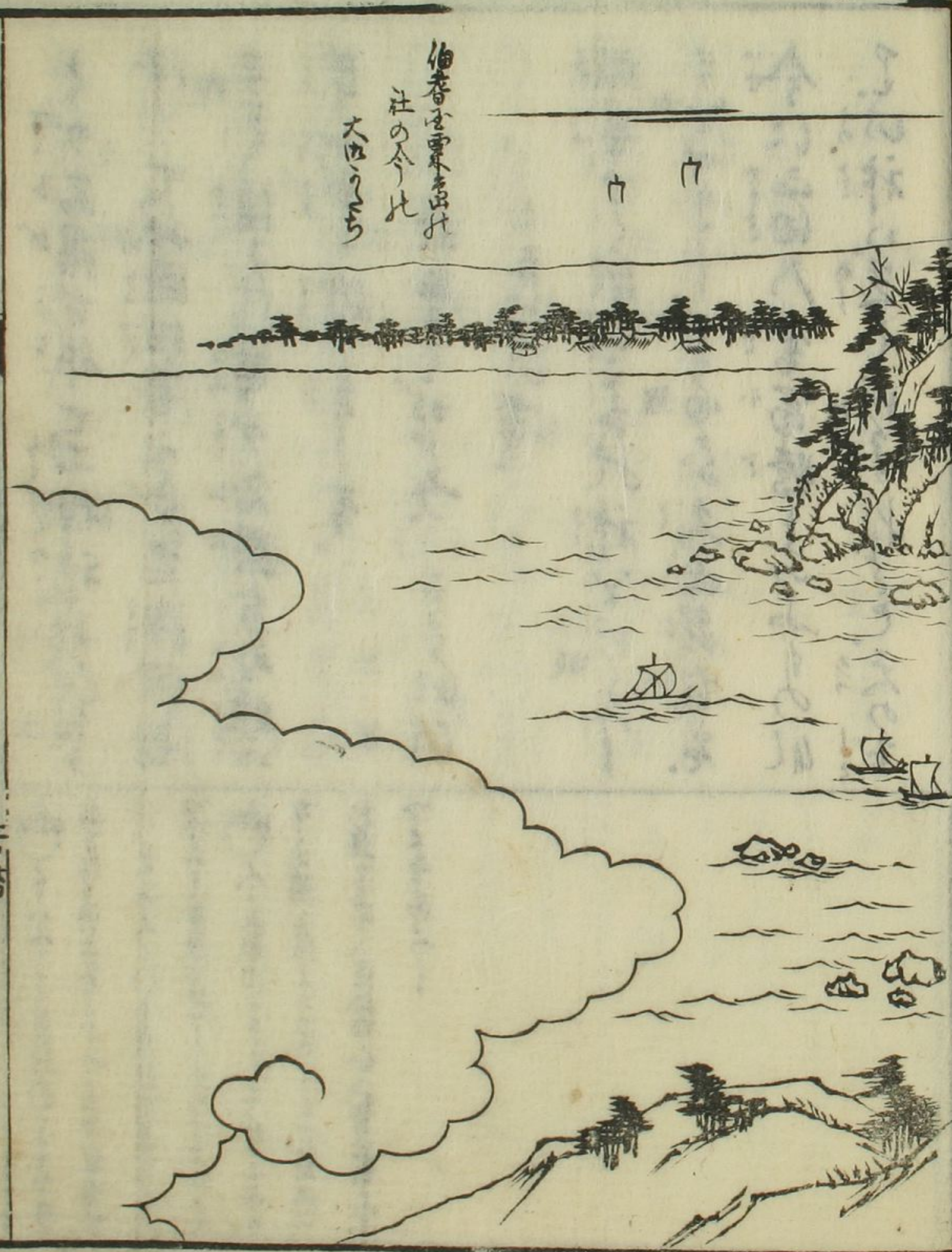
白

まことせだまをれ
とととん
乃波子
よき
ま
わづ波子
僕
華原色
て
了

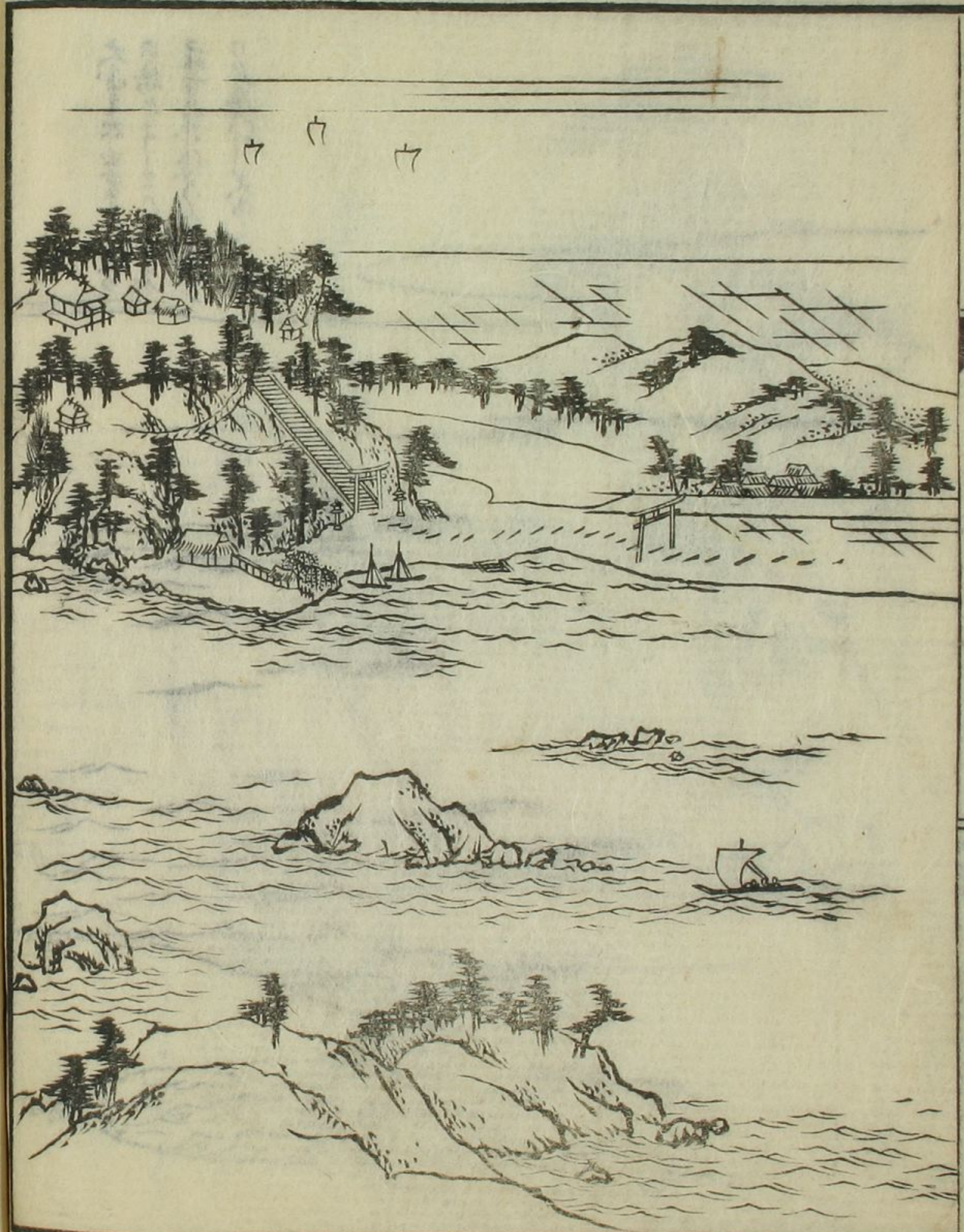
大正三林 出雲王三徳の
内徳のよき八時少名
臣古事記源の上にあ
りし漢の 大正三



伯耆玉粟山
社の今此
大内より



中世四



すまびこを さざりもの 相 並
とか名醫古那と二柱神あひあ
げて此國化すといふ先給ひま
然 のち 後また其が名醫古那神ハ
孝せむい流アまゝ一也。

経歴をいひて。 ともれび

こまれば濁。

故其すれびこまれば神とけり 頭
白 所謂 まとせりいふゆゑ久安醫古那
今に留乃雪留晴とつよめられ
アは神ハ足こりけりぬとと天の下

病とけり法を定めしむるに
けりてあつて〇を獣良虫の然りて
んぬも禁厭の法を定めしむるに
人ハ土敷いりてあつてけりての虫
かんの障を除くことよりあつての法ハ
けりてあつてハ医家諸命を定めしむるに
〜〜〜

乃事と 悉 知 知 神よなも

ありとら。

又ハ大なるを すまびこ 頭 見 畜 産

二柱神と 頭 見 あ 畜 産 又 畜 産

乃たあふ病 やまひ 療 方

ばあ又 ま 畜 産 の 昆 虫 災

ちひとけり 療 禁 厭

ひ乃 法 姓 姓 百 姓

あ 恩 頼 蒙 今 今 蒙 蒙

その 恩 頼 蒙 今 今 蒙 蒙

あは。

○はさふまきうみまの辰

えに大國主神大國主神うまひまきて吾

れ獨り何でかきしを得

え作孰む相びまの神作と吾もふ

わも吾しを相あひつ作くま海原

はたまひお依け来し吾う汝れ海原

く照く依より来る吾神汝あ海原る海原

乃吾れ汝たま吾ま汝く吾わ汝え吾いま汝ま吾の

幸魂奇魂なり吾わ吾が吾ゆ吾ら吾と吾よく

治吾と共た典は相あ相ま相と相も相ぐ相に相あ相ひ

作成り難な難して難む難く難終難あ難ら難す難

い成なり難か難て難ま難し難と難は難る難終難ひ難ふ

れ成な難る難神難ま難く難終難く難終難

ら成だ難は難ら難ま難つ難く難む難ま難は難つ難ふ

ぞ成と難ま難く難終難つ難だ難ら難ま難を難づ難も

傷成乃難ま難垣難東難北難ら難ら難ま難い難ま難ま難

つ成れ難く難の難を難終難ひ難き難ま難を難脚難法難の

ら成れ難ま難ま難す難大難美難わ難大難抱難ま難大

神成なり難

神なり。

△ 皇孫の御魂

○ 皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

皇孫の御魂

素魂をききたたまふ奇魂也

くみまはつ二つ乃名んと

たに相魂乃たつとまをい

ふれり。 爺もまへ

或は太右國城上郡大神太

物多神社相嘗新嘗

○大年神羽山神の山子たらんから

故う此大年神神活須呂神乃

女伊勢比賣より三河のくしませ

る湯子大皇魂神次は禊神

△大年神羽山神の山子等のこと

○神活須呂神 山名を神八社活(生)き

須呂(奇)天(と)こ ○山娘伊勢比賣(山)

名(ま)こ(ま)ま(ま)お(お)伊(伊)勢(勢)比(比)賣(賣)

大國(大)魂(魂)神(神) ○大國(大)主(主)神(神)乃(乃)心(心)を(を)

主(主)神(神)乃(乃)心(心)を(を)神(神)乃(乃)心(心)を(を)

○曾富理神 山名を神式小宮内省

坐神三座(坐)神(神)社(社)禊(禊)神(神)乃(乃)心(心)を(を)

○白日神 山名を神式小宮内省

○聖神 山名を神式小宮内省

○御年神 山名を神式小宮内省

○大香山戸臣神 山名を神式小宮内省

○奥津日子神 山名を神式小宮内省

○奥津比賣神 山名を神式小宮内省

○大年神

大國御魂神
神母は伊勢比賣
山娘伊勢比賣
禊神

曾富理神
神母は山子

白日神
神母は山子

聖神
神母は山子

大香山戸臣神
神母は山子

御年神
神母は山子

奥津日子神
神母は山子

奥津比賣神
神母は山子

○大年神羽山神の山子たらんから
故う此大年神神活須呂神乃
女伊勢比賣より三河のくしませ
る湯子大皇魂神次は禊神

△大年神羽山神の山子等のこと
○神活須呂神 山名を神八社活(生)き
須呂(奇)天(と)こ ○山娘伊勢比賣(山)
名(ま)こ(ま)ま(ま)お(お)伊(伊)勢(勢)比(比)賣(賣)
大國(大)魂(魂)神(神) ○大國(大)主(主)神(神)乃(乃)心(心)を(を)
主(主)神(神)乃(乃)心(心)を(を)神(神)乃(乃)心(心)を(を)

次は曾富理神次は白日神次は
聖神又奥津比賣乃山子と生
まむる湯子大香山戸臣神次は
御年神又天知御魂乃山子と
御年神次は奥津比賣命又の
名は山子と生 此諸山子乃
ちいづく電神なり次は山子
神又乃山子と生 此諸山子乃
を海に山子と生 此諸山子乃

○曾富理神 山名を神式小宮内省
坐神三座(坐)神(神)社(社)禊(禊)神(神)乃(乃)心(心)を(を)
○白日神 山名を神式小宮内省
○聖神 山名を神式小宮内省
○御年神 山名を神式小宮内省
○大香山戸臣神 山名を神式小宮内省
○奥津日子神 山名を神式小宮内省
○奥津比賣神 山名を神式小宮内省

若山咋神
所由六右二日

若年神
所由六右二日

若沙那賣神
所由六右二日

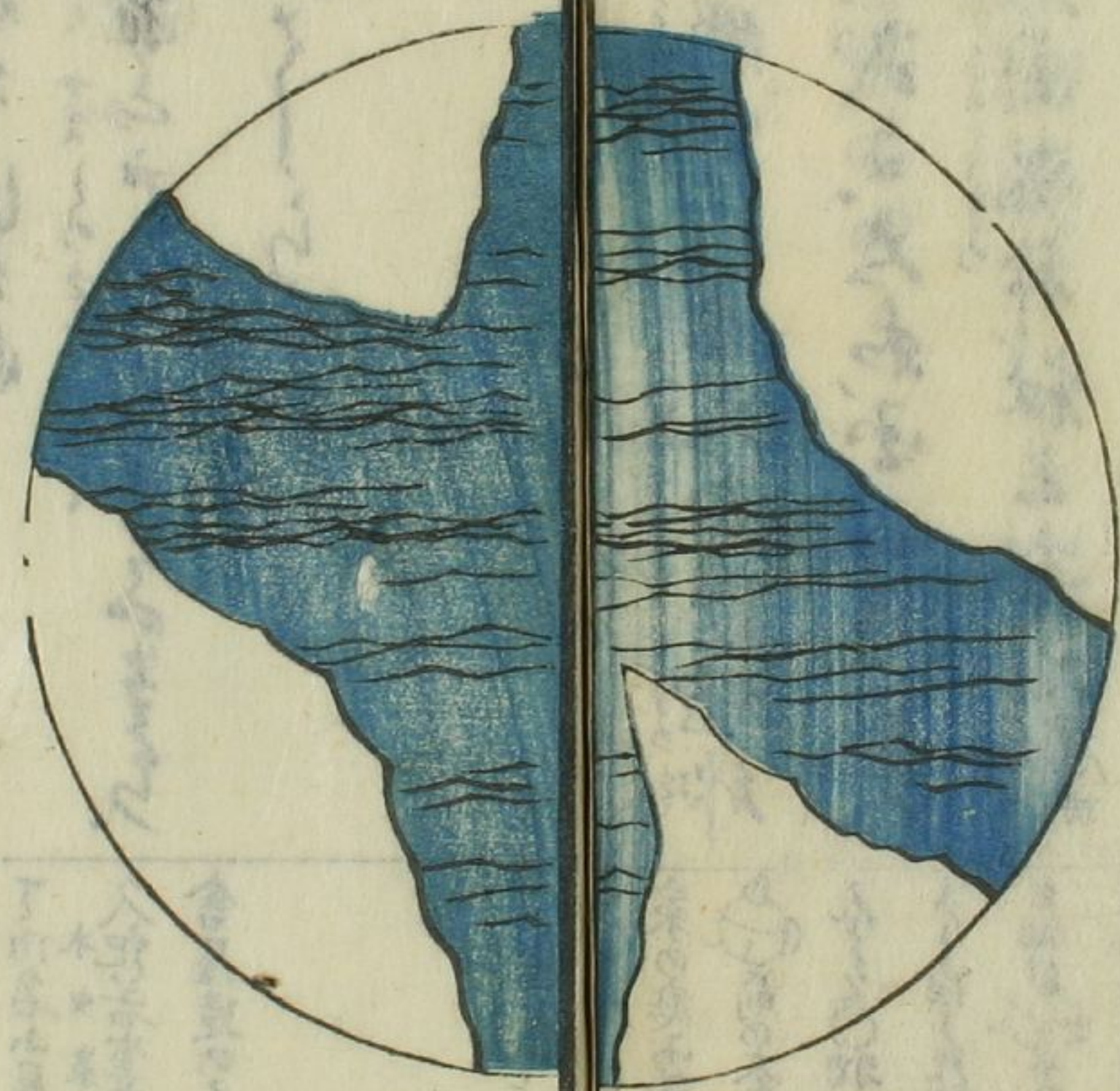
彌豆麻岐神
所由六右二日

夏高津日神
又夏之賣神
所由六右二日

秋毘賣神
所由六右二日

久久年神
所由六右二日

久久紀若室葛根神
所由六右二日



上ハニ百天原中ハ家此也ヤハ
茶見ハのまもつてててててて
とみりてりてりてりてりてり
世ハ月日とらハニ百天原ハ
云思大原神 雲人由玉子
月徳命 所由六右二日
ゆゑなり

小室のひくしをせふ所子若山唯
 神次より多神次は妹若山那
 賣神次は孫豆麻次神次は夏言
 は日神又の久の夏之賣神次は月
 神是賣神次は久の夏神次は
 久の夏神次は久の夏神次は

昔稻をけぬ

上代より羽の戸神乃は子まら
 ありをくハヤラマヤ

一町と名の安西の濃郡と西東からてんんを
 ○夏高津神又の名夏高賣神
 前前の國は像郡秋たを久の年神並草
 木の立長くまきの女夏高の快く長く
 の御名を
 若年の稲の苗初生るるを
 那賣の田植
 田水
 ○秋の稲の神
 穀の神
 ての石小肩世の
 久紀若室高根神
 舎屋造の

